

消防ヒヤリハットデータベース事例情報シート

【事例概要について】



1. 事故・ヒヤリハットの別	事故
2. 体験した事例の名称	三連梯子取扱訓練中（車上伸梯訓練）の事故
3. 体験した事例の中心的要素	伸梯中に風の影響を受けバランスを崩し、梯子の引き綱を放し二連目が落下、指を挟んだもの。
4. 体験した事例の原因・理由	風の強い日に車上伸梯訓練を行った。 三連梯子の確保員、安全管理員が少なかった。

【体験した事例の直接的な原因について】



1. 体験した事例の直接的な原因	
------------------	--

【体験した事例について】



1. 発生日時	平成 19 年 9 月 25 日	午後 2 時頃
2. 発生した当時の天候	晴	
3. 発生した活動現場	屋外：消防訓練センター	
4. 体験した事例の種類	回答者が、他人を負傷させた。	
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	軽傷	
6. どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか）		
7. 事例体験時の活動	演習訓練 [救助（通常時の訓練）]	
8. （7の活動中） どのような作業中に発生したか	高所救助訓練	
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した。	

10. 事例体験者の属性（回答者は当事者A）

○当事者A	年齢[36]歳、勤続年数[14]年、現場経験年数[13]年、階級[消防副士長]、同様の活動[頻繁]、任務[隊員]
○当事者B	年齢[31]歳、勤続年数[8]年、現場経験年数[7]年、階級[消防副士長]、同様の活動[頻繁]、任務[機関員]
○当事者C	年齢[31]歳、勤続年数[8]年、現場経験年数[7]年、階級[消防士]、同様の活動[頻繁]、任務[隊員]
その他 (当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生の経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過1	当事者A・B・C	三連梯子取り扱い訓練を実施する	
経過2	当事者B・C	三連梯子を車上へ上げる	
経過3	当事者C	三連梯子の確保を行う	
経過4	当事者B	三連梯子の伸梯を開始する	
経過5	当事者B	三連梯子二連目の伸梯を行う	
経過6	当事者B	風によりバランスを崩し引き綱を放す	
経過7	当事者B	三連梯子の安定をとるため保持し、指を挟む	
経過8			
経過9			
経過10			

【その事例発生時の状況について】



○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思うか？

ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

危険情報を把握、予見できなかった。危険事象の対応方法を知らなかった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	はい
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	はい
・隊員が不足していた。	はい

○その他

l. その他の理由があった。

はい：突風が吹いた	
-----------	--

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

訓練隊員が1つのことだけに集中し、いろいろ考えられる危険要素を予見できなかった。
日頃の訓練から危険予知の訓練を行う必要がある。

○装備・資機材の対策について

資機材の取り扱い、構造を把握し、引き綱を放さないように周知した。

○活動環境の対策について

狭隘な場所で風も強く、突風が吹き活動に危険が伴う場合には、確保員を増やす、又は、安全管理員を配置させる等の対策が必要である。

○指揮・情報伝達の対策について

活動場所、気象状況等から予見できる危険情報は隊員に周知し、安全を確認し訓練を行う。

